



倍因氏

心理新說

井上哲次郎抄譯
大槻文彦校訂

第一

□ 7
3145
1



① 第三綱 爬蟲類 一名 匍匐蟲

爬蟲類ハ鳥類ト魚類トノ中間ニ在リテ有脊動物ノ第三階ニ位ス此綱ニ属スル者ハ冷血赤色ナレバ鳥獸ト同ジカラズ陸ニ棲ムアリ或ハ水ニ居ルアリ皆卵ヲ生ミテ砂中ニ置ク又足アリテ行歩スルモノアリ或ハ足ナクシテ匍匐スルモノアリ之ヲ分チテ四目トス即龜類、蜥蜴類、蛇類、蝦蟆類是ナリ

② 第一目 龜類

東京同盟會



大財文式部
大正十一年
東京同盟會
大正十一年

3145
1-4

井上哲次郎抄譯
大槻文彦校訂



倍因氏
心理新說

東京 同盟舎



心理新說序

電線也。火船也。自鳴鐘也。我邦人唯其物之奇。而不知究其所由來。豈不淺見之甚耶。夫電線火船與自鳴鐘。無一不本于科學。然而科學原出于哲學。而心理學實為哲學之根基矣。昔希臘之盛。瑣克利底、布拉多、亞里私特德等。前後輩出。哲學大興。於是乎科學始胚胎焉。後文運移入羅馬。及羅馬亡。夷狄猖獗。哲學幾絕。僧徒纔傳之。降至中世之末。哲學復興。倍根出於英。埤加爾多出於佛。倍根尚實驗。埤加爾多尚論



心理新說 卷之二 同盟舎

D 7
3145
1

心理新說 卷之一 序文 一 同 盤 全
法。東西對立。振撼一世。歐洲之哲學。由此分為
二派。蓋韓圖及費希的、設林、歌傑爾。其他獨逸
之諸先輩。傳堙加爾多之學。而大成之。即由論
法而究真理。洛克及牛董、彌爾、達兒尹、蘇邊薩。
其他英之諸先輩。皆出于培根之後。而傳其學
風。即由實驗而究真理。於是乎究真理之法。盡
矣。而人智開發。科學始窮其精。電線懸焉。火船
走焉。自鳴鐘鳴焉。可知科學原出于哲學也。抑
電線起于紙鳶。火船起于鍋蓋。自鳴鐘起于懸
燭。其所緣起。皆不外于尋常所習見之物。而我

邦之人不能創之者。何也。以其不有尋究推度
之力耳。欲得尋究推度之力。無若興哲學焉。欲
興哲學。無若興心理學焉。心理學實為哲學之
根基也。或曰。電線之祖。富蘭克林也。火船之祖。
瓦德也。自鳴鐘之祖。加里列阿也。此三氏皆物
理學家也。未聞其修哲學也。今以哲學為之本。
則俗所謂引水于我田者。非耶。其然。豈其然乎。
彼三氏雖不脩哲學。而其得尋究推度之力者。
蓋亦由諸先輩興實驗哲學以開之。端緒耳。如
我東洋。雖不乏哲學。而論法未窮其精。實驗未

心理新說 卷之一 序文 二 同 盤 全

得其法。而繼起無其人。此其所以少創起歟。請就支那而證之。當周之末。哲學將大興。孔子唱愛他說。而孟子和之。揚子唱自愛說。而墨子唱兼愛說。任他說。始于老莊。干涉說出。于申韓。功利說起。于管商。儒者爲天命說之祖。墨者爲非命說之祖。論法本于公孫子。物理論胚胎于亢倉關尹二氏。嗚呼。不亦盛乎。然而漢魏六朝以降。詞章之學盛。而講真理之學幾乎息。降至趙宋。周邵張陸程朱等陸續輩出。紹往聖啓來哲。於是哲學復將興。而復遂廢。朱明之世。唯有王

新建一人而已矣。如薛敬軒陳白沙胡敬齋楊升庵之徒。豈足數哉。由此觀之。支那亦不乏哲學。而繼起無其人。故遂不大興。迨至近世。究真理者。落落晨星。百不一二見。是以人智有退而無進。余也自幼好究真理。後入大學。專攻哲學。讀東西之異書。苦學經歲。至今稍有所見。乃先抄譯。倍因之。心理篇。蓋倍因與彌爾蘇邊薩諸氏。同屬實驗學派。故其說精核。最可憑信。雖然。其論涉純正哲學處。間有不確當者。且其書浩瀚。不便童蒙。故就其切要處。取捨折衷。作爲此

書名曰心理新說。將以為興哲學之階梯矣。倍因名亞歷山大。蘇格蘭之人。學問該博。屹為一代之鴻儒。

明治十五年八月。巽軒井上哲撰

董邨水多澂書



緒言

一 泰西諸國、心理ノ書ニ乏シカラズト雖モ、其簡明ニシテ周到ナル者、倍因氏ノ著ニ若クハナシ、然レモ我邦ニ於テハ、尚ホ浩瀚ニ過クルヲ以テ、今、千八百七十五年ノ原書ニ就キ、取捨折衷シテ此書ヲ作ル、

一 此書ハ原書ノ要領ヲ舉クル者ナレバ、編次ノ體固ヨリ原書ト同ジカラズ、是レ皆我邦初學ノ便ヲ圖リテ為ス者ナリ、
一 心理ト生理トハ、其關係極メテ密ナルヲ以テ、

原書ハ、生理上ヨリ心理ヲ説キ来レリ、是レベ
インシ氏ハ頗ル心理學ニ功アル所以ナリ、此書
モ僅ニ其一斑ヲ存セリ、亦ベインシ氏ノ意ニ背
カザルヲ欲スル所ナリ、ハハ書ナシハ、誠ニ大
束シテ此書ヲハ
明治十五年三月 井上哲次郎識
以今十八日、十五日、
心然ノ所好ハ、餘ヲハ尚ホ、餘ニ、
即ニ、ニ、ニ、ニ、ニ、ニ、
一、泰西諸國ノ野ノ書ニ、多シ、ニ、ニ、ニ、ニ、
謝言

倍因氏 心理新説目次

卷之(一) 總論

第一 總論

- (一) 人ノ知識ハ、二大部分ニ属ス、
- (二) 客觀ノ部分ハ、延長アリテ、主觀ハ延
- (三) 長ナシ、

第二 感覺

- (一) 感覺ノ定義、
- (二) 感覺ノ彙類、



(三)五官ノ數、十全ナラス、
(四)殘餘ノ感覺、

味覺

- (一)味覺ノ官并ニ味覺ヲ起ス外物、
- (二)舌、
- (三)味覺ノ所感、
- (四)胃ト交感スル味覺、
- (五)原味、
- (六)味覺ノ觸覺ト伴生スル者、

味覺

- (一)嗅覺ノ官、
- (二)嗅覺ヲ起ス外物、
- (三)薰氣ノ増進、
- (四)薰氣ノ蔓行、
- (五)鼻、
- (六)薰氣ノ作用ノ法、
- (七)嗅覺ノ所感、并ニ肺ト交感スル感覺、
- (八)薰氣ノ原性、
- (九)觸覺ト伴生スル薰氣、

觸覺

(一) 觸覺並ニ觸覺ヲ起ス外物、

(二) 皮膚、

(三) 觸覺ヲ起ス作用、

(四) 觸覺ノ所感、

(五) 觸覺ノ智識ニ關スル者、

(六) 觸覺ノ筋覺ト伴生スル者、

聽覺

(一) 聽覺ヲ起ス外物、

(二) 耳、

(三) 聽覺ノ作用ノ法、

(四) 聽覺ノ所感

(五) 音樂ノ音響、

(六) 音響ノ智識ニ關スル者、

(一) 視覺

(二) 視覺ヲ起ス外物、

(三) 目ノ作用ノ法、

(四) 兩目同觀、

(五) 視覺ノ所感、

(六) 視覺ノ筋力ニ由ル者、

第三 体欲

体欲ノ定義并ニ睡眠、運動、休息、飢渴、

第四 本性

本性ノ定義并ニ彙類、

(一) 反動作用

反動作用ハ無意ニ出ツ、

(二) 消化ニ關スル動作、

(三) 呼吸ニ關スル動作、

(四) 目ニ關スル動作、

(五) 筋ノ動作、

(五) 筋ノ強力、

(一) 集合協和ノ動作

(二) 移動協合、

(三) 其分解、

(四) 始メヨリ聯合シタル作用、

(五) 各支体ノ協合、

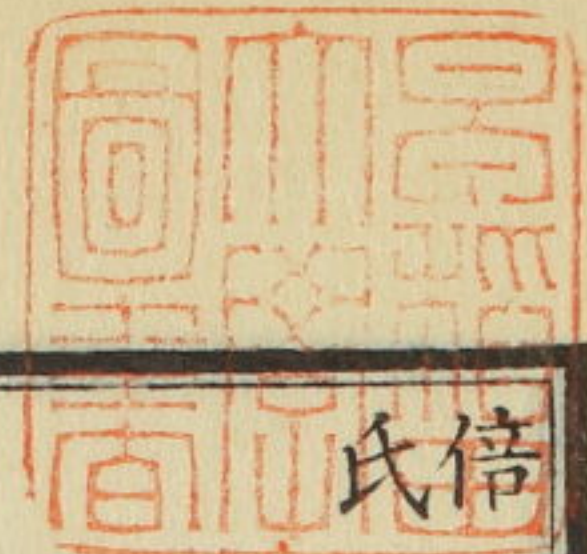
初メ起ル感應ノ表現

(一) 心意ト身体トノ合一、

(二) 心意ノ表現、

(三) 聲音并ニ呼吸筋、

- (四) 全身ノ筋、
- (五) 感應ノ影響、
- (六) 自護律、
- 執意ノ萌芽
- (一) 意志ハ習成ノ結果、
- (二) 意志ノ基礎、第一、筋ノ發動性、
- (三) 第二自護律、
- (四) 快樂ヲ保續スベキ動作、
- (五) 動作ト快樂ト把住カニヨリテ心中ニ聯合ス、



倍因

心理新説卷之一

井上哲次郎 抄譯

文彦書校訂

第一、總論

(一) 凡ソ人ノ智識、即チ經驗ハ、二大部分ニ属ス、二大部分トハ、所謂心意ト物質トナリ、哲學士ハ又外界、内界等ノ語ヲ用フレドモ、客觀、主觀ノ名、最モ取ルベキナリ、

木川、星宿ノ經驗ハ、客觀ニ属シ、快樂、苦痛、執意、思想ノ經驗ハ、主觀ニ属ス、

凡ソ、人ノ知ル所、又念フ所ハ、一トシテ、此二大部分ノ中ニ属セザルハナシ、實ニ此二大部分ハ、全世界ヲ包含スル者ナリ、

(三)客觀ノ部分ハ、延長ト云ヘル一種ノ性質ニヨリテ存ス、主觀ノ部分ハ、此性質ヲ有セザルナリ、
(三)木ヤ川ヤ、皆延長セル大サヲ有スト謂フベシ、然ルニ、快樂ノ如キハ、長サ廣サ厚サヲ有セズ、是レ決シテ延長スル者ニアラズ、思想又ハ觀念ハ、延長セル大サニ就イテ言フベシト雖モ、其實決シテ延長ノ性質ヲ有スルニアラズ、又

意志、願望、信任ノ發動ニ就テ、空間ニ幾分ノ大サヲ占ムト言フヲ得ズ、是故ニ、主觀ノ部分ニ属スル者ハ、總ベテ延長セザル者トスルナリ、

(三)是ヲ以テ、若シ主觀上ノ經驗ヲ總稱シテ、之ヲ心意ト名クルハ、心意ノ定義ヲ下メシテ、延長ナキ者トスベキナリ、然レドモ客觀上ノ經驗モ、亦一方ヨリ之ヲ觀レバ、又心意上ノ事ニ属スルヲ以テ、正シキ心理學ニテハ、心意ハ三種ノ性質、即チ官能ヲ有スル者トス、三種ノ性質トハ、感應、

心理新論 卷之一 同 全

意志及ビ知カナリ、凡ソ、人ノ經驗ハ、客觀、主觀ヲ論ゼズ、皆此三種ノ官能ニ由ル者ナリ、
 本感。應トハ、總ベテ人ノ苦痛、快樂、及ビ其他ノ諸感動ヲ謂フナリ、
 溫暖、飲食、音樂ノ快樂、貧困、懊惱ノ苦痛、周障、及ビ驚駭并ニ輕キ物ヲ支ヘ、凡案ニ觸レ、遠處ノ犬聲ヲ聽ク等ノ諸感動ハ、皆之ヲ感應トスルナリ、
 意。志トハ、感應ニ由リテ起ル行為ヲ總稱スルノ名ナリ、
 飲食、步行、談話等ハ、皆始メヨリ目的アリテ為ス所ノ行為ナリ、
 而シテ其目的ハ快

樂ヲ得ルニアラザレバ、必ズ苦痛ヲ避クルニアルナリ、
 感應ニ由リテ起ラザルノ行為ハ、有意ノモノニ非ズ、
 風、重力、電氣等ノ如キ自然ノ勢力、并ニ呼吸、血液ノ循環、及ビ腸ノ自動ノ如キ有機体ノ諸官能ハ、皆然ルナリ、
 知カトハ、知覺、記憶、概念、抽象、理性、斷定、想像ノ力ヲ謂フナリ、
 或ハ又之ヲ分解シテ辨別、契合、把住ノ三官能トス、
 第二、感覺、
 (一) 感覺ハ、身体ノ局部ニ、外物ノ發動スルヨリ起

ル、心意上ノ感動ヲ謂フナリ、味、嗅、聽、視ヨリ起ル感應ノ如キ是レナリ、

(三) 感覺ハ、其緣リテ起ル人身ノ機關ニ隨ヒテ彙類ス、故ニ五官ニ分ツナリ、

機關ノ分別ハ、要因及ビ感應ノ分別ト異ナラズ、光ノ要因タルヤ、響ト同ジカラズ、而シテ之ニ應ズル官能ノ覺知モ亦同ジカラズ、是レ人ノ視覺ト聽覺トヲ混ゼザル所以ナリ、

(三) 五官ト云ヘル通例ノ數ハ十全ナラズ、知識ノ根源トシテ之ヲ見ルキハ、官能ハ殆ト

五官ニ外ナラズ、然レドモ更ニ又快樂并ニ苦痛ノ根源トシテ之ヲ見ルキハ、大ニ不足ノ所アリ、即チ飢渴、滿飽、窒塞、溫煖、及ヒ其他體軀ノ快、不快ニ由リテ知ルベキ態度ハ、五官ノ外ニアルナリ、然レドモ此等ハ前ニ定義ヲ下カシタル感覺ノ特質ヲ有スル者ナリ、

(四) 殘餘ノ感覺ヲ總稱シテ有機感覺トス、一切ノ感覺ヲ分チテ二種トス、有機感覺并ニ味覺及ヒ嗅覺ノ如キハ、感應上ニ於テハ、肝要ノ者ナリト雖モ、知力上ニ於テハ然ラズ、然ル

心理新説 卷之一 四 同盟

ニ觸覺、聽覺、視覺ノ三ツノ者ハ、知力上ニ關係スルノ極メテ大ナリ、是ヲ以テ、之ヲ知力上ノ感覺トス、然レドモ感應上ノ感覺モ亦コレナキニアラザルナリ、

味覺

(一) 味覺ノ官ハ、食道ノ上口ニアリ、快樂、苦痛ノ本ニシテ食物ヲ辨識スルノ機ナリ、

味覺ヲ起ス外物ハ、大抵食物トナル者ニ限ル、

鑛物類中唯水ノミハ、味無シト雖モ、大抵流動体及ビ流動体ニ變ズベキ凝固体ハ、味ヲ有ス、

醋、常塩、明礬ノ如キハ、的例ノ近キ者ナリ、

植物ト動物トハ、大抵皆味ヲ有スル者ナリ、但

蛋白、澱粉、護謨ノ如キハ、味無シト雖モ、其他ハ大抵味アル者ナリ、

(三) 味覺ノ機關ハ、舌ナリ、感性ノ位置ハ、其上面ナリ、

舌ノ上面ハ、小乳頭ヲ以テ成ル、小乳頭ハ血管ヲ含有スル者ニテ、舌ノ感覺アルハ、專ラ此ニ由ルナリ、

二種ノ神經アリテ、舌上ニ布ク、其一ヲ味神經

トス、味神經ハ、味覺ヲ管スル者ナリ、
 (三) 味覺ノ所感ハ、分チテ三種トス、第一、胃ト直接ニ交感スル感覺、即チ風味、第二、原味、第三、觸覺、是レナリ、
 第一ハ、舌ト食道ト同質ヲ有スルノ結果ナリ、
 且ツ又原味ニ拘ハラズ、舌ノ感應ニ因リテ、食物ノ胃ニ適スルカ適セザルカヲ知ルヲ得、舌ハ實ニ胃ノ一端ナリ、又風味ト原味トヲ混ズベカラズ、牛酪及ビ割烹シタル肉ハ、風味ニ屬シ、塩及ビ規尼涅ハ、原味ニ屬スルナリ、

(四) 胃ト交感スル味ニ風味アリ、嘔味アリ、風味ハ、美食ヨリ發スル快キ感應ナリ、砂糖ハ、風味モ原味モ共有セリ、蓋シ快キ感應トシテハ、風味ハ、消化ノ感覺ヨリ銳敏ナリト雖モ、原味ヨリ銳敏ナラズ、又風味ヲ有スル者ニテ消化シ難キナリ、然レドモ、嘔氣ハ絶エテアルナシ、
 (五) 原味ハ、甘、苦、鹹、酸、辛、六味ヲ總稱スルナリ、甘味ハ、砂糖ニ於テコレアリ、果實及ビ其他ノ食物ノ甘味アルハ、砂糖ヲ含ムガ為メナリ、

苦味ハ、規尼涅ノ類ニ於テコレアリ、此味ハ、甘味ト全ク相反ス、苦味ハ、味神經ニ痛ク感ジ、甘味ハ、快ク感ズ、是ヲ原味トスルナリ、

(六) 味ノ第三種ハ、觸覺ト伴生スル者ニテ、大抵刺戟ノ性アリ、鹹酸辛等ノ味、是ナリ、

鹹味ハ、常塩中ニ存スル者ニテ、甘味苦味ト同ジカラズ、但刺戟ノ性ヲ有ス、或ハ原味ト刺戟ノ性トヲ兼有スル者アリ、
酸味ハ、醋中ニ存スル者ニテ、衆人ノ熟知スル所ナリ、此ニ由リテ生ズル痛ミハ、苦味ニ似ズ

シテ、却ツテ火傷ニ類ス、
芥子、亞兒格兒、干福兒、及ヒ其他揮發物ニ属スル辛味ハ、皆同性ニシテ、又多少ノ原味ヲ帶フル者ナリ、

(三) 嗅覺

(一) 嗅覺ノ官ハ、肺ノ上口ニアリ、快樂、苦痛ノ本ニシテ、肺ニ入ル空氣ヲ辨識スルノ機ナリ、
嗅覺ハ、又味覺ト甚ク接近スル者ニテ、往々協合スルコトアリ、

(二) 嗅覺ヲ起ス外物ハ、大抵瓦斯ヲ生ズル物、即チ

揮發物ナリ、
 空氣ハ、薰氣無クシテ、沃顛、礪砂等ノモノハ、薰
 氣アリ、金石ノ中、薰氣ヲ放ツ者ナキモノアリ、
 植物、動物、
 物ニ限ルナリ、
 (三) 薰氣ノ増進ハ、熱ト光トノ効ニ由ル、濕氣ノ效
 ハ一様ナラス、
 熱ハ、其揮發力ニヨリテ溶解ヲ助ケ、光ハ、化學
 的ノ感化ヲ生ズ、濕氣ハ、凝固体ヲ溶化ス、其揮
 發ノ路ヲナスナリ、

(四) 瓦斯ノ薰氣ヲ發スルハ、其蔓衍ノ性アルニ由
 ルナリ、
 薰氣ノ中、輕キ者ハ、速ニ蔓衍シテ、高ク昂リ、香
 料ノ香ハ、其蔓衍ノ性ニヨリテ、遠處ニ薰ス、又
 動物ノ薰氣ハ、最濃ク瓦斯ナルヲ以テ、漸ク蔓
 衍シテ、高ク昂ラザルナリ、
 (五) 嗅覺ノ機關ハ、鼻ナリ、感覺ノ位置ハ、鼻孔ニ延
 布スル膜ナリ、
 鼻孔ハ、總ニテ粘膜炎ニ蔽ハル、而シテ粘膜炎ハ、接
 近スル骨ノ為メニ、其表面ヲ開展ス、故ニ甚

シキ感覺ヲ生ズルナリ、表面ニ開孔ニ付テ、
鼻孔ノ神經ヲ嗅神經ト云フ、嗅神經ハ鼻孔ノ
内部ニ多クシテ、外部ニ少シ、

(六) 薰氣ノ作用ハ、法ハ、蓋シ酸化ハ行ハズ、
ルナリ、
薰氣アル者ハ、夫れ酸化シ易ク、薰氣アル者ハ、
酸化シ難キナリ、又酸素ヲ鼻孔ニ通ズルニア
ラザレバ、薰氣ヲ感セザルナリ、

(七) 嗅覺ノ所感ハ第一、肺ト交感スルモノ、第二、薰
氣ノ原性、第三、觸覺ナリ、
其薰氣ハ、封テハニ由

肺ト交感スル感覺ニ、新鮮、若クハ窒塞ノ薰氣ア
リ、

新鮮ノ薰氣ハ、肺ノ作用ヲ速ニシ、爽快ナル感
應ヲ生ズ、薄荷ノ如キ是ナリ、麝香モ亦激發ノ
効ナリ、
窒塞ノ薰氣ハ、肺ノ作用ヲ壓スルヲ生ズ、群
衆ノ中ニ起ル薰氣ノ如キ是ナリ、

(八) 薰氣ノ原性ニハ、香氣ト臭氣トアリ、
香氣ヲ發スル者ニハ、薔薇、苦蕒、橘柚ノ類アリ、
此等ハ、嗅覺ノ快キ者ニテ、久シク耐フベキナ

香氣ノ反對ヲ臭氣ト云又亞魏ノ薰氣ノ如キ
 是ナリ、又臭氣ノ中ニ少シク嘔氣アリテ、著ル
 シク刺戟セザル者アリ、
 (九) 觸覺ト伴生スル者ハ、刺戟性ノ薰氣ナリ、
 礪砂、尼格質尼、芥子等ハ鋭烈ナル感覺ヲ生ズ、
 之ヲ刺戟ト云フナリ、
 亞兒格兒及ヒ其他酒類ノ薰氣ハ、多少ノ香氣
 ト、多少ノ刺戟性ヲ帶ブルナリ、
 觸覺

(一) 知識ヲ助クルノ効ニ於テハ、觸覺ハ、疑身ナク、
 味覺ト嗅覺トノ上ニ位ス、
 觸覺ヲ起ス外物ハ、大抵凝固体ナリ、
 瓦斯ハ、急ニ吹クニアラザレバ、觸覺ヲ起ス能
 ハズ、流動物ハ、寒熱ノ外、感覺ヲ生ズルコト少ナ
 シ、感覺ヲ生ズルニハ、凝固体ノ如ク、堅固ナル
 表面ヲ要スルナリ、
 (二) 感覺アル機關ハ、全身ノ皮膚ト口舌鼻ノ内面
 トナリ、
 皮膚ノ部分ハ、表皮、真皮ト二層ニシテ、其一ハ

汗ヲ生ジ、其一ハ脂肪ヲ生ズ、
 (三) 觸覺ヲ起ス、作用ハ、單一ナル壓搾ナリ、
 (二) 定体ノ觸ル、アレバ、必ず皮膚ヲ壓搾シ、從ヒ
 テ又其底ニアル神經ヲ壓搾スルナリ、
 (四) 觸覺ノ所、感ハ、分チテ三種トス、觸覺ノ情緒ニ
 關スル者、知力ニ關スル者、并ニ筋覺ト協合スル
 者、是ナリ、
 第一ノ種類ハ、柔軟ナル觸覺、刺戟スル痛、寒熱
 等ヲ謂フナリ、
 柔軟ナル觸覺ハ、襦衣、寢衣等ノ如キ、延長セル

表面、柔軟ニ皮膚ニ觸ルヨリ起ルモノニ
 快キ感覺ヲ伴生ス、快キ感覺ハ大抵觸覺ト
 溫氣ト合スル者ナリ、小兒ノ母ニ觸レ、人ノ
 手ヲ以テ其面ヲ摩スルモ、皆之ガ為メナリ、
 刺戟スル痛、或ハ却リテ快キコトアリト雖
 モ、其度ヲ過カズ、銳烈ナル痛ミトナル、是レ
 神經ノ活潑ナル代ニ限ルナリ、
 寒熱ノ感覺ハ、最モ皮膚ニ關スル者ニシテ、又
 頗ル重大ナル者ナリ、是ヲ以テ、或ハ寒熱ノ
 司下ル神經アリト云フ者アレドモ、未ダ正

シキ證左アルヲ聞カザルナリ、
 (五) 觸覺ノ知カニ關スル者ハ、觸所ノ許多ナルト
 歷探ト是ナリ、
 觸覺ノ知カ上ニ於テ勝レタル著ルシキ事ハ、
 皮膚ノ各處ニ起ル各様ノ感覺ナリ、ニ支ノ食
 以テ掌上ニ置ケバ、二様ノ感覺ヲ生ズ然ルニ
 嗅覺ヲ於テハ、數様ノ感覺ヲ生ズルヲナク、唯
 増減長短ノ度アルノミ、
 歷探ノ力、稍強キハ、單ナル觸覺ノ外ニ、一種
 ノ感應ヲ生ズ、此感應ハ、銳烈ナル痛ミヲ生ズ

ルノ度ニ至ラザレバ、痛快ナキ者ニテ、其各度
 (一) 知カニヨリテ、覺知スルヲ得ルナリ、
 (六) 觸覺ノ第三種ハ、觸覺ノ筋覺ト伴生スル者ニ
 テ、抗拒重量及ビ歷探堅硬及ビ柔軟、粗剛及ビ平
 滑並ニ延長ノ各種ヲ謂フナリ、
 抗拒重量及ビ歷探ハ、モト筋カト關係スル者
 也、大ナル重量ハ、大ニ筋カヲ損ズ、
 堅硬及ビ柔軟、歷探スル片ノ感覺ニヨリテ
 之ヲ知ル、即チ形ヲ變ズル片ニ起ル抗拒ノ度
 ヲ堅硬ノ度トス、

粗剛及ヒ平滑ハ、觸所ノ許多ナルヲ覺知スル
 ニヨリテ、之ヲ辨識スルヲ得、今指ヲ以テ刷毛
 上ニ加フルニ、許多ノ刺アルヲ感じ、又其刺ノ
 粗密ヲ判知シ、遂ニ判知スベカラザルニ至リ
 テ止ムナリ、
 延長ハ、客觀ノ通性ニシテ、之ヲ知ルハ、主トシ
 テ觸覺、視覺ノ兩官能ニ由ルナリ、
 聽覺

(一) 聽覺ヲ起ス外物ハ、撃タレテ振動スル所ノ有
 形ノ物体ナリ、物体ノ振動ハ、空氣ニ及ビ、隨ヒテ

又耳ニ及ブナリ、
 堅硬ニシテ柔軟ナル者ハ、最モ音響ヲ生ズ、故
 ニ金屬ヲ以テ第一トシ、次ニハ木石、及ビ土器
 トス、流動體、并ニ瓦斯ハ、凝固體ノ之ヲ衝擊ス
 ルアルニ非ザレバ、其音響最モ微ナル者ナリ、
 (二) 聽覺ノ機關即チ耳ハ、第一、外耳、第二、鼓膜、即チ
 中耳、第三、迷竅、即チ内耳ニ分ツナリ、
 初ノ兩部ハ、第三ニ附属スル者ニテ、感覺アル
 表面ヲ有スルハ、第三ノミナリ、
 外耳ハ、耳朶ト耳孔トヲ謂フ、耳朶ハ、及響ニヨ

耳、音響ヲ増シ、耳孔ハ、鼓膜ニ至リテ終ル、
 中耳即チ鼓膜ハ、狭小ニシテ曲折シ、迷竅ニ至
 リ、咽喉ヲ通シ、三小洞ニシテ、
 中内耳即チ迷竅ハ、骨下膜トヨリ成ル者ニテ、
 顛ノ内ニアリ、
 (三) 聽覺ノ作用ノ法ハ、迷竅中ニアル流動物ノ壓
 搾ニヨリテ、聽神經ヲ感ズルニアルナリ、
 音響ノ起ルヤ、外耳ニ入リテ、鼓膜ヲ撃チ、ソレ
 ヲシテ振動セシム、此振動ハ、耳内ノ各骨ニ感
 ズ、遂ニ聽神經ニ及ブ者ナリ、

(四) 聽覺ノ所感ハ、分チテ三種トス、第一、聽覺ノ情
 緒ニ關スル者、第二、音樂ニ關スル者、第三、智識ニ
 關スル者、是ナリ、
 聽覺ノ情緒ニ關スル者ハ、美惡、高低、大小上ヨリ
 論ズルヲ得ベシ、
 聲音ノ耳ニ快キ者アリ、耳ニ快カラザル者ア
 リ、又快モ不快モナキ者アリ、其理ハ未ダ詳ナ
 ラザレドモ、觸覺ノ例ニ由リテ之ヲ考フルニ、
 柔ニ聽神經ニ感ズル者ハ快クシテ、急ニ衝動
 スル者ハ痛ミアリ、

凡ソ音響ハ、高キニ過ギザレバ、快キ者ナリ、然レドモ、若シ高キニ過クレバ、刺戟スル感覺ト為リテ、神經ヲ損ズルニ至ルナリ、音響ノ大ナル者ハ、大ナル表面、又ハ延長ヲ有スル者ヨリ生ズ、群衆ノ呼聲、大海ノ濤聲ノ如キ、是ナリ、蓋シ音響ノ大ナルハ、其高キヨリモ快キ者ニテ、神經ノ疲羸ヲ来タスヲナキナリ、

(五) 音樂ノ音響ハ、調子、昇音、降音、合音、不合音ノ諸質ヲ謂フナリ、

(四) 調子ハ、音樂ノ音響ノ本性ナリ、音樂ノ音響ハ、

音樂ノ音響ニアザル者ヨリ好キナリ、是レ其清純ナルト、其既ニ合音ヲ含有スルトニ由ルナリ、

昇降スル行動ニ似タル音響ノ耳ニ快キハ、人ノ熟知スル所ナリ、風ノ音響ノ如キ、是レナリ、各種ノ音響共ニ起ル片ハ、或ハ合音アリ、或ハ不合音アリ、或ハ何レニモアザル者アリ、

(六) 音響ノ知力ニ關スル者ハ、分節アリ、距離アリ、方向アリ、又明音アリ、特音アリ、

明音トハ音響ノ分明ニシテ、晦澁ナラザルヲ

謂フ、蓋シ音樂ノ樂ミアルト、意味ノ覺知スベ
キトハ、共ニ音響ノ分明ナルニ由ルナリ、
各種ノ樂器ヲ以テ同音ヲ生ズルハ、其度ハ、
相異ナラザルモ、耳ニ感ズル所ハ相異ナリ、之
ヲ樂器ノ特音ト謂フナリ、
音響ノ分節ヲ知ルハ、談話ノ基礎ナリ、
音響ノ距離ハ、全ク其高低ノ度ニヨリテ、之ヲ
知ルヲ得、何ントナレバ、音響ハ同ジ音響ニテ
モ、遠近ニ隨ヒテ高低アリ、然レドモ是レ唯、既
ニ知ル所ノ音響ニ就イテ言フノミ、未ダ知ラ

ザル所ノ音響ニ至リテハ、其距離ヲ計ルコト能
ハズ、
方向ヲ覺知スルハ、本来ノ性ニアラス、即チ音
響ノ高低、及ビ明不明ヲ辨識スルニ由リテ得
タル者ナリ、音響ハ同ジ音響ニテモ、頭ノ方向
ニ從ヒテ強弱ヲ生ズ、蓋シ耳孔ニ向ヒテ直線
ニ來ル音響ハ、最モ強キ者ナリ、
視覺
(二)有形ノ物体ハ、大抵皆視覺ヲ起ス外物ニ属ス
ルナリ、

物体ハ、高キ熱度ニ達スレバ、自ラ光ヲ發スル
 一アリ、火炎、熱鐵等ノ如キ、是ナリ、天光モ亦然
 リト云フ、地球上ノ物体ノ過半、及ビ月球、并ニ
 諸行星ハ、自ラ光ヲ發スル者ノ反射ニ由リテ
 見ルベキナリ、
 (三) 視覺ノ機關即チ目ハ、複透鏡ヲ以テ成リ、感覺
 アル表面ト連絡ヲ通ズル者ナリ、
 眼球ハ、眼窩ノ前部ニアリテ、複透鏡ヲ包含ス、
 眼球ノ外、三膜六筋等ノモノアリテ、視覺ノ用
 ヲ為ス、視神經ハ、眼球ノ後ニアリ、是レ視覺ノ

縁以テ起ル所ナリ、
 (三) 目ノ作用ハ、法ハ、視覺ノ結果ヲ第一トス、
 何物ニ限ラズ、若シ物ヲ見ル片ハ、光線、瞳子ニ
 入り、透液ノ為メニ曲折シ、眼球ノ後ニ物象ヲ
 倒ニ寫シ、以テ視神經ニ感ズルナリ、
 (四) 兩目ヲ以テ見ルニ、一物ノ兩象ヲ現ハサズシ
 テ、單象ヲ現ハス、之ヲ兩目同觀ト謂フ、
 (五) 四角ナル箱ノ如キ物ヲ顔面ニ近キクル片ハ、
 (五) 兩目ノ見ル所、不同アリ、物愈近ケレバ、不同愈
 増シ、物愈遠ケレバ、不同愈減ズ、蓋シ兩象ノ合

シテ一トナルニハ、若干ノ距離ヲ要スルナリ、
 (五) 視覺ノ所感ハ、半ハ視力ニ由リ、半ハ筋力ニ由
 ル者ナリ、此二者無クシテハ、視覺ヲ有スルヲ能
 ヲ、
 視力ニ由ル者ハ、光、色、光澤、是ナリ、
 色無キ光ノ結果ハ、日光ニ於テ之ヲ知ル、日光
 ハ快樂ヲ生ズル者ニテ、諸覺中ニアリテハ、
 最モ久シク堪フベキナリ、
 (三) 色ハ光ニ副フモノニテ、快樂並ニ人智ヲ増ス
 ノ効アリ、純粹ノ白光ハ、若干ノ原光ニ分解ス

マベシ、此等ノ原光ヲ分別シテ、次第ニ現出スル
 片ハ猶ホ一層ノ快樂ヲ加フルナリ、
 木或ハ物ノ表面ニ就イテ、光澤アリト云フ、光澤
 ハ、光ノ錯雜シタル結果ナリ、
 (六) 筋力ニ由ル者ハ、視ルベキ動作、視ルベキ形体
 等ナリ、
 視ルベキ動作ハ、動作スル物ニ追隨スル視覺
 ヲ謂フ、即チ光ノ室内ヲ横ギル片ノ如ク、光、右
 ニ動ケバ、右ノ筋收縮シ、左ニ動ケバ、左ノ筋收
 縮シ、光ノ方向ニ從ヒテ、筋ノ作用モ亦異ナル

ナリ、
視ルベキ形体トハ、動力ザル物ノ外形ヲ目ニ
テ測量スルヲ謂フ、蓋シ外形ヲ測量スル為メ、
目ニテ經過シタル所ハ、曲直圓角ヲ問ハズ、皆
心中ニ印ス、是ヲ以テ、人心ハ夥多ノ視ルベキ
形体ヲ包藏スル者ナリ、
第三、体欲、
体欲ハ、特選シタル感覺ナリ、乃チ定義ヲ下メシ
テ、有機系ノ時々要求スルヨリ起ル不穩ハ、感應
ナリトス、

体欲ハ、執意若クハ行為ヲ含有ス、今夫レ、執意
ハ、動機又ハ激因ヲ要ス、而シテ体欲ノ激因ハ、
即チ感覺ナリ、然リト雖モ、意志ヲ動力ス、感覺
ハ、皆体欲ナリト云フニ非ザルナリ、通常認め
テ体欲トスル者ハ、時々起ル有機系ノ要求ヨ
リ生テ、睡眠、運動、体息、飢渴等ノ如キ、是ナリ、
睡眠ハ、有機系ノ時々要求スル所ナレバ、之ヲ
欲セズト雖モ、自然ニ成ル者ナリ、其体欲トナ
ルハ、之ヲ拒ム片ニアリ、之ヲ拒ム片ハ、身ノ不
穩ナルヲ覺ユ、此不穩ナル態ヲ除カント欲ス、

之ヲ体欲トス、此不覺ナルヲ欲マシムルニ
 運動ト休息トハ、健康ニ必要ナル事ニシテ、欲
 望ノ存スル所ナリ、休息ノ後ニハ、機關爽快ニ
 シテ、運動ヲ要求ス、若シ之ニ應ゼザレバ、全軀
 安全ナラザルヲ覺ユ、如何ナル障碍ト雖モ、之
 ヲ除カント欲ス、是レ亦体欲ノ作用ナリ、休息
 ノ体欲タルモ、亦之ト異ナラズ、
 飢渴ハ、二様ノ体欲ヲ表ハス、總体ノ体欲、特別
 ノ体欲、是ナリ、總体ノ体欲ハ、全身ニ就イテ云
 ヒ、特別ノ体欲ハ、格段ノ食物ニ就イテ云フ、即

チ酒、茶、烟草ノ類ヲ指スナリ、此外、新鮮ノ空氣
 ヲ欲スルガ如キモ、亦体欲ナリ、

第四、本性、

本性ハ、定義ヲ下カシテ教ヘザル能力トス、即チ
 經驗若クハ教育ヨリ先キニ存スル者ナリ、例ヘ
 バ、小兒ノ乳房ヲ吸ヒ、小犢ノ生ル、ヤ、忽チ四足
 ニシテ歩シ、鳥ノ卵殼ヲ出ツルヤ即チ啄シ、各獸
 ノ一般ニ其母ニ依ルガ如キ、是ナリ、
 感應、意志、及び知力、ト云ヘル心意ノ三境中ニ於
 テ、必ズ我が總能力ノ基本タルベキ者ナカルベ

カラズ、其名目左ノ如キ、本々ハシテ、皆ナクハシ
 一、反射的、反動作用、
 二、無意識的、反動作用、
 三、初起、感應、表現、
 四、執意、萌芽、
 五、反動作用、
 六、無意識的、作用ニシテ、感應、志向、及、執
 意ナキ者ナリ、其類左ノ如シ、
 (一) 消化ト關係シタル動作、
 口ノ食物ヲ吞ム、又ハ嚙ムハ、有意ノ作用ニシテ

(二) 腦髓ノ協力ヲ要ス、然レドモ食物既ニ咽喉
 ニ迫マレバ、乃チ無意識ノ作用ニヨリテ下ル、蓋
 シ食物、食道ノ表面ニ觸ルレバ、以テ其散布シ
 タル神經、之ガ為メニ感動シ、以テ纖維ヲシテ
 收縮セシムルナリ、
 (三) 呼吸ト關係シタル動作、
 呼吸ノ作用ハ、有意ノ筋之カ用ヲ示ス、雖モ、
 意志ナキ能力ニヨリテ保續スル者ナリ、故ニ
 氣ヲ吸フ、
 胸ハ、胸ハ、腹筋ニヨリテ壓搾セラレ、
 噴ク、

咳嗽并ニ嘔ハ反動作用キニ氣、肺ト關係アリ、
 又小兒ノ乳房ヲ吸ハズ、亦反動作用ヲ以テ、
 (三) 目ト關係シタル反動作用、驚キハ皆ナリ、姑ニ
 瞬ハ作用ハ、眼球、眶内ニ表面目觸レテ起ル、淚
 液ヲ周布シ、眼球ヲ掃淨スルノ功ヲナス、
 (四) 筋ハ、激動ニヨリテ、動作スルノ傾向アリ、
 首列ネラレタル犬ノ足ヲ壓搾スレバ、オノツ
 カラ閉ル、又小兒ノ頬ニ觸ルレバ、其含笑スル
 ヲ見ル、
 (五) 筋ノ強カト名クモ、成果、
 筋ノ收縮ハ、熟睡ト時ト雖モ、コレアリ、但、死後
 二至リテ、始メテ止ム、蓋シ筋ノ此收縮ハ、
 脊髓ノ為メニ起ル、故ニ脊髓ト共ニ滅絶スル
 ナリ、
 集合協和ノ動作
 (一) 集合動作ノ最モ著ルシキ例ヲ移動協和トナ
 ス、
 劣等ノ四足獸ニアリテハ、明カニ此事ヲ證ス
 ベシ、幼牛、幼馬、幼羊ノ如キハ、其生レタル日ヨ
 リ歩行スルヲ得、人類ハ生レテ後、數月間歩行

筋ノ收縮ハ、熟睡ト時ト雖モ、コレアリ、但、死後
 二至リテ、始メテ止ム、蓋シ筋ノ此收縮ハ、
 脊髓ノ為メニ起ル、故ニ脊髓ト共ニ滅絶スル
 ナリ、
 集合協和ノ動作
 (一) 集合動作ノ最モ著ルシキ例ヲ移動協和トナ
 ス、
 劣等ノ四足獸ニアリテハ、明カニ此事ヲ證ス
 ベシ、幼牛、幼馬、幼羊ノ如キハ、其生レタル日ヨ
 リ歩行スルヲ得、人類ハ生レテ後、數月間歩行

スル能ハズト雖モ、コレハ骨格ノ未ダ十全ナ
ラザルト、直立スルノ難キトニヨル者ニテ、其
雙脚ヲ互ニ動カスハ、又其自然ニ知ル所ナリ、

(三) 移動協合ハ、三種ニ分ツヲ得ベシ、

(一) 手足ハ、各ニ對筋ノ交互動作ニヨリテ前
後ニ擺揺ス、即チ歩行スル片ハ、屈折筋ト延長
筋ト互ニ收縮ス、而シテ重力モ亦之ガ用ヲナ
スナリ、
(二) 手足ハ、相對シテ交互ノ動揺ヲナス、故ニ左
右ノ手足ハ、一時ニ動カズシテ、相互ニ動クナ

ス、意ハ、自來ノ力ニ合ハカキハ、八般ニ動カス

(ハ) 四足獸ノ移動ハ、前後四足ヲ相互ニ動カス
ヲ得、匍匐蟲ノ如キハ、全軀ノ一端ヨリ他端ニ

至ルマデ、次第ニ收縮スルナリ、
(三) 人身ニハ、始メヨリ聯合シ格ル作用アルナリ、
其著ルシキ例ハ、兩眼ナリ、兩眼ハ、始メヨリ聯

合シタル者ニテ、俱ニ動カサバ、ラシト欲スル
モ、得ベカク、

(四) 人身左右ノ動作ハ、聯合シテ起ル、其事、眼眶及
ビ容貌ニ至ルマデコレアリ、小兒ノ如キハ、自

カラ兩手ヲ俱ニ動カスノ傾向アルナリ、
 (四)各支体ハ其動ク片協合セシテスル者歟、
 如何ナル機關ト雖モ、速ニ動ク片ハ、他ノ機關
 ヲシテ皆速ナラシム、故ニ急ナル演説ハ、急ナ
 其容姿ヲ生シ、演劇ハ、急ナル感激
 (三)人効ヲ有ス、又如何ナル支体ト雖モ、緩ナル片
 全、全軀ヲシテ皆緩テラシム、故ニ緩ナル演説
 ハ、緩ナル容姿ヲ生ズルナリ、
 (二)初メ起ル感應ノ表現
 (一)心意ト身体トノ合一ナルヲハ、殊ニ感應ノ表

現スル所ニ於テ之ヲ見ルナリ、
 各種ノ感應ハ、各種ノ顔色ヲ生ズト云フハ、古
 ヲリ世人ノ稔知スル所ニシテ、喜悦、悲痛、畏怖、
 忿怒、驕慢ノ如キハ、各、其格別ナル表象アリ、コ
 レハ如何ナル時代ニ於テモ、如何ナル人民
 アリテモ、同様ノ事ニテ、或ハ之ヲ自然ノ言語
 面ト稱ス、此ニヨリテ之ヲ觀レバ、心意ト身体ト
 (三)ハ、始メヨリ關係アルナリ、
 (二)顔面ハ、感應ニヨリテ伸縮スルヲ以テ、殊ニ之
 ヲ心意ノ表記トスルナリ、

顔面ヲ伸縮スルノ筋ハ、鼻目口ノ三官ヲ圍繞
 スル者ナリ、
 (三) 聲音ト呼吸筋トハ、感應ヲ表現スルニ於テ、顔
 面ト共ニ變ズル者ナリ、
 聲音ヲ發スルノ機關ハ、氣管ニシテ、聲音ヲ發
 スルニ當リテ、其發音線筋ノ為メニ伸縮セラ
 ル、然リト雖モ、聲音ハ、氣管筋ノ作用ノミニテ
 發スル者ニアラズ、胸モ亦平生ト其作用ヲ異
 ニシ、口舌モ亦之ト協力スルナリ、
 (四) 全身ノ筋ハ、甚シキ感應ノ為メニ激動セラル

ルコアリ、
 甚シキ心意ノ感激ハ、全身ノ激動ヲ生ス、是レ
 蓋シ各神經ノ交感スルヨリ起ルナリ、
 (五) 感應ノ影響ハ、各官能ニ及ブ者ナリ、
 蓋シ如何ナル機關ト雖モ、感應ノ為メニ感化
 セラレザル者ハナキナリ、
 (一) 涙腺ハ、淚ヲ生スル者ニテ、淚常ニコレヨリ
 出ツ、然ルニ、情緒動キテ温和、懊惱、喜悅トナル
 片ハ、淚ノ出ツルコト平生ヨリモ多ク、膏ニ眼ヲ
 濕スノミナラズ、又頰上ニ流れ出ツルナリ、

(口)如何ナル情緒ト雖モ、消化器ニ關係ナキ者ハ無キナリ、總ベテ憂鬱煩悶ナル欲情ハ、胃肝及ビ腸等ノ作用ヲ妨害ス、喜悅ハ大抵健康ニ益アリ、然レドモ頗ル甚シキ片ハ却リテ又妨害ヲ生ズル者ナリ、

(八)皮膚ノ汗ヲ發スルハ、甚シキ感應ノ時ニ於テモ亦コレアリ、恐怖スル片冷汗ノ出ツルガ如キ、是ナリ、

(三)心臟ノ作用ハ、心意ノ作用、共ニ健康ト變ズル者ナリ、蓋シ感應ノ中、心臟ノ作用ヲ急ニス

ル者アリト雖モ、苦痛驚駭及ビ鬱憂ハ、之ト全ク反對ノ結果ヲ生ズ、

(ホ)婦人ノ乳腺モ亦感應ノ為メニ變ゼラレ、故ニ鬱憂ナル片ハ、乳汁ニ毒ヲ生ズルナリ、

(六)感應ト体形トノ關係ハ、一主義ノ中ニ包含セラル、曰ク活動力ノ一部若クハ全部ハ快樂ノ情ニヨリテ増加セラレ、苦痛ノ情ニヨリテ殺滅セラレ之ヲ自護律ト謂フ、

此主義ニ證ハ、感應ノ要因ト表象トニ存スルナリ、

(一) 運動ノ身ニ快キハ、餘アル元氣ノ流出スル
此ナリ、全身ノ疲羸スルハ、元氣ノ耗盡シタル結
果ナリ、疲羸シタル片、休息スルノ快キハ、血液
ノ筋ヨリ他ノ機關ニ及流スルナリ、此外、快樂
ヲ生ズルノ要因、少シトセザルナリ、
(二) 快樂アル片ノ表象ハ、活潑ナリ、強壯ナリ、富
豊ナリ、是レ皆元氣ノ暫ク亢進シタル象ナリ、
之ニ及シテ、苦痛アル片ハ元氣衰へテ、静黙ナ
リ、沈鬱ナリ、虚弱ナリ、故ニ傷害ト疾病トハ、甚
シク患者ノ氣カヲ殺滅スルナリ、

執意ノ萌芽

(三) 成長シタル人ニ存スル意志ハ、多クノ習成ノ
結果ナリ、

飢エタル人ハ、食物ノ顔前ニアルヲ見バ、之ヲ
取リテ其口ニ入レ、且ツ齧ミ且ツ嚥ム、但、幼稚
ノ者ハ、其心ニ於テ飢エタル態ト、飢ヲ醫スル
法トヲ考へ合ハスヲ能ハザルヲ以テ、之ヲ為
スヲ能ハズ、蠅、小兒ノ面ニアリテ觸感スレド
モ、之ヲ掃フハ又幼稚ノ為スヲ能ハザル所ナ
リ、凡ソ局部ノ觸感ト、其局部ニ手ヲ動カスヲ

ヲ心ニ聯合スルハ、多クノ經驗ヲ積ムニヨリテ起ル、故ニ意志ハ習成人結果ナリト知ルベシ、

(三)第一、意志ノ基礎トナル者ノ一ハ、筋ノ作用ノ發動性ニ於テコレアリ、

總ベテ作用アル機關ノ動クハ、筋ノ發動性ニヨリテ起ル者ニテ、各支体ハ、唯其中心ニアル元氣ノ激發ニヨリテ、作用ヲ生ズルニ至ルナリ、然レドモ、發動性ハ、未ダ意志ト成ラザル者ニテ、其衝動スルヤ、定リナク、又目的ナシ、然ル

ニ、意志ノ向フ所ハ、選ラ所ニシテ、又目的ノ存スル所ナリ、

(三)第二、意志ノ基礎ニシテ別ニ自護律ニ屬スル者アリ、

快樂ノ元氣ヲ増スト、苦痛ハ元氣ヲ減スルト

ナルノミ、若シ動作ノ快樂ヲ生ズルアラバ、快樂ヲ為メニ、其動作ヲ保續セシトス、例ヘバ乳房ヲ吸フ小兒ノ、既ニ乳房滋味ヲ知ルガ如キ、是レナリ、又苦痛ニ就イテ之ヲ言ハンニ、若シ

動作ノ苦痛ヲ生ズルアラバ、苦痛ノ為メニ其動作ヲ止メントス、例ハバ動物ノ火ニ近キハ、底、炎熱ノ為メニ佇立スルガ如キ、是内リ、
 (四)快樂ト快樂ヲ保續スルモ、動作ハ、始メハ必ズ偶然ニ出ル者ナリ、
 動物ノ始メテ生ル、ヤ、其母ノ温体ニ觸レテ、
 昔快樂ヲ覺エ、乃チ其快樂ヲ保續セント欲ス、又
 (三)其母ノ乳房ヲ吸ヒ、快樂及ビ快樂ヨリ生ズル活動力ヲ得ルナリ、蓋シ乳房ヲ吸フハ、自然ノ動作志出ツト雖モ、之ヲ保續セシト欲スルハ、

意志ノ成ラント欲スル始メナリ、
 (五)第三同シ動作ト快樂ト、一回ヨリ多ク暗合スルハ、心意ノ把住力ニヨリテ、始メテ此二事ヲ心中ニ聯合スルナリ、
 食物ノ味ト、咀嚼スル事ト、伴起スルヲ以テ、食物ヲ口ニ入ルレバ、其腮直チニ動カント欲ス、此等ノ事ハ、又知力共ニ意志ノ部ニ於テ、細論スルヲアルベシ、
 大學文藝士 井上哲次郎博士 著
 心理新説卷之一終

大學文學士 井上哲次郎先生抄譯
文部省編輯局員大槻文彦先生校訂

○倍因 心理新說 全四冊 上帙二冊 下帙二冊

○同 釋義 小本全冊 近刻

大學理學部長兼教授
菊池大麓先生譯述

○論理新說 全部三冊 近刻

